

## V205a TMT 計画 - 超大型望遠鏡本体の製造 その2

齋藤正雄、杉本正宏、寺田宏、田澤誠一、楠本弘、小俣孝司、岩田生、臼田知史（国立天文台）

TMT (Thirty Meter Telescope) は、日本が国際協力で実現を目指している次世代の地上超大型 30m 望遠鏡である。日本は望遠鏡本体構造とその駆動制御システムの製作を担う。2011 年度から開始した概念設計、基本設計を経て、詳細設計審査が完了した。2018 年度から製造フェーズに入り、製造図面作成を開始した。本講演では前回講演（2019 春季年会 V236a）以降の進展を報告する。

実際の製造を始めるにあたり、望遠鏡構造はスケジュールリスクや業務の過度の集中を避けるため、複数にわけて製造前準備審査をすることになっている。そのうち、2020 年 3 月の第一回は方位角、仰角構造の主要 3 部位（Az ピントル、El ジャーナル、下部チューブ構造）を対象とし実施した。製造図面の確認および、対象部品に対する、安全、品質などの審査が行われた。その結果、レーザーガイドシステムのインストール時の機械インタフェースを最終系にし、一部の図面を最新のものにする修正を実施するという条件でパスした。これらの条件を解決をはかり、第二回の製造準備審査へむけた作業をつづけている。

今年度は TIO 側でサブシステムの基本、最終設計審査会が複数あり、望遠鏡本体構造とのインターフェースを製造図面作成のため確定する作業が続いた。特に、配線や配管の最終設計審査会その 1 は設計と製造の担当が異なるという特殊な事情の中開催された。これらの状況についても報告する。